

年始市長記者会見 配布資料(参考)

平成20年1月4日(金) 午前10時30分

は19年中、 は20年以降の内容です。

部	項目	概要
総務部	新しい総合計画の策定	新しい総合計画の策定に向けて、平成19年8月以降市民意向調査や地区別・団体別意向調査を行うほか、地区別・団体別懇談会を行い市民意識の把握に努めてきました。本年は庁内関係会議の議論をまとめ、「小樽市総合計画審議会」の答申を得て平成20年中の策定を目指します。
	福祉コミュニティ都市推進事業(小樽市高齢者懇談会・杜のつどい)	開設3年目を迎え、会員数は平成19年10月末で470名。各種講座やイベントを自主的に企画、開催。特に、自宅近くの通学路で登下校時の子どもを見守る「子どもの安全を守る会」を発足させ、より社会参加、社会貢献を意識した活動が加わった。10月には「杜のつどい」の銭函版「銭函いきいきパワー塾・優游の会」が設立された。
	小樽・後志ハエヌキ音楽祭・2007	平成19年11月4日、小樽・後志を音楽で結び、地域と人の交流を深め、元気で明るい後志の地域づくりに貢献することを目指し、市民会館を会場に開催。市民、地方出身の歌手やアーティストなどが出演し、約600人の観客が来場した。
	「おれの小樽」歌詞プレートの設置	平成19年11月3日、小樽・後志ハエヌキ音楽祭の一環として企画され、おたる運河散策路に作詞家杉紀彦氏、作曲家弦哲也氏も参加し除幕式が行われ、「おれの小樽」のオルゴールつき歌詞プレートが、設置された。今年の「小樽の人よ」の歌詞プレートに次いで2枚目。
	石原裕次郎メモリアルアベニュー「裕次郎の小径」プレート設置	平成19年12月1日、小樽・後志ハエヌキ音楽祭の一環として企画され、故石原裕次郎さんが、小学生時代を懐かしみ1本1本抱きしめたというアカシアの横に記念プレート「裕次郎の小径」を設置。
	童謡「赤い靴・親子像」の設置	平成19年11月23日、童謡「赤い靴」のモデルになった女の子と、生き別れになった両親の「赤い靴・親子像」が、運河公園に建てられた。これは、両親が晩年を小樽で過ごしたことから、両親と縁が深かった「カトリック富岡教会」などが建設委員会を設立し、全国からの募金をもとに建てた。
	近代産業遺産の認定	平成19年10月に旧手宮線と旧手宮機関車庫などの鉄道施設が、経済産業省が全国から公募していた「近代化産業遺産」に認定されました。日本の近代化に寄与した施設を認定し、地域活性化に活用してもらう目的で、「石炭産業で我国の近代化を支えた北海道産炭地域の鉱山関連資産群」として夕張炭鉱や北炭幌内炭坑関連資産などとともに認定されました。
奥沢水源地(階段式溢流路)の一般開放	奥沢水源地は、大正3年に完成し、昭和60年に「近代水道百選」の1つに選ばれています。階段式溢流路は、21mの落差を10段で流下させるもので、流れ落ちる景観は清涼感を与え、周囲の自然とよく調和した美しさを見せています。この溢流路は、水道週間の期間を除き、水管橋の手前で立ち入り禁止としていましたが、水管橋の床面などに安全対策を行い、平成20年6月から冬期間を除いて解放します。	

は19年中、 は20年以降の内容です。

部	項目	概要
総務部	組織・機構の見直し	<p>現在の業務量に見合ったスリムで効率的な行政運営を目指すとともに、財政再建を念頭に置きながらも社会経済情勢の変化に伴う様々な課題に対応し、安定した市民サービスを継続的に提供していくため、市の組織・機構を改正する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経済部と港湾部を統合し、「産業港湾部」とする。</li> <li>・医療と保険分野の組織一元化を図るため、新たに「医療保険部」を設置する。</li> <li>・市民部と環境部を統合し、「生活環境部」とする。</li> </ul> <p>・そのほか、室・課・係の統合および再編を行うとともに、柔軟で機動的に対応できるグループ制導入の促進を図る。</p>
	小樽市国民保護計画の策定	<p>武力攻撃や大規模なテロが発生した際に、国民の生命、身体および財産を保護するため、関係機関相互の連携体制や日頃から備えておくべきことを定める「小樽市国民保護計画」を平成19年3月に作成し、住民避難や救援活動などが円滑に行われるようにしました。</p>
財政部	財政再建の取組	<p>平成19年度の一般会計当初予算は、これまでの財政再建の取組をさらに進め、職員給与の独自削減の継続や事務事業の見直しにより予算規模の大幅な縮小を図り、収支均衡予算を編成しました。しかしながら、平成18年度決算は、平成16年度以降3年連続の赤字となり、平成19年度の財政運営は平成18年度の赤字額11億8000万円を引継ぐなかで、普通交付税が予算より3億3000万円減収となるなど、極めて厳しい状況が続いています。</p> <p>また、平成18年度決算においては、会計処理の見直しにより、国民健康保険事業特別会計と病院事業会計についても赤字決算となりました。</p> <p>今後、平成20年度からは、いわゆる「地方財政健全化法」により、一般会計だけでなく病院事業会計を含めて市の財政状況が判断されていくこととなりますので、必要に応じ「財政健全化計画」を見直しながら、改めて財政の再建を最優先課題として早期健全化に向け、全力を尽くしていきたい。</p>
経済部	アンテナショップの開設	<p>平成19年10月1日に小樽市のアンテナショップとして、東京都板橋区内のハッピーロード大山商店街の全国ふる里ふれあいショップ「とれたて村」で地場製品の販売を開始。出店記念イベントでは、市長やミス小樽が参加し小樽製品の試食販売や観光PRを行った。</p>
	東アジア・マーケットリサーチ事業	<p>「東アジア・マーケットリサーチ事業実行委員会」が平成19年3月18日～22日、台湾台北市および彰化市において市内食品関係企業10社が参加し、現地バイヤーを対象とした商談会を実施した。商談の結果、取引に結びつく事例もあり、一定の成果があった。</p> <p>今年の1月21日～25日まで再度台湾を訪問し「商談会」や観光PRの実施を計画している。</p>

第10回小樽雪あか  
りの路

1999年に始まった「小樽雪あかりの路」も今年で10回目となり、周年開催にふさわしい様々な企画を用意しています。また、韓国・中国などから総勢60名のボランティアが来樽し、イベントを盛り上げます。開催期間は平成20年2月8日(金)～17日(日)。

は19年中、 は20年以降の内容です。

部	項目	概要
経済部	「中小企業地域資源活用プログラム」に基づく地域資源の認定	平成19年度に経済産業省は、中小企業が地域資源を活用した新商品開発などを包括的に支援することを目的に「中小企業地域資源開発プログラム」を創設した。小樽市は、ホッケ ガラス 日本酒 ビール ワイン 産業遺産が地域資源の認定を受け、初年度は(株)深川硝子工芸と田中酒造(株)がこのプログラムに基づき事業計画の認定を受け、新商品の開発に取り組みました。今後、市内中小企業に対してこのプログラムの活用を促し、地域資源のブランド化を進めます。
	企業の集積が進む 銭函4・5丁目	平成19年は大規模な工場用地を有する、石狩湾新港小樽市域に企業の事業拡大や操業が増えている。これら企業の総投資額は60億円を超え、税収の増加はもとより、雇用の創出・拡大、物流や取引の活発化など、本市経済の活性化に大きく寄与するものと考えられる。
市民部	総合サービスセンター窓口開設時間の延長の試行	通勤者や日中仕事などで窓口を使用しづらい方の利便性を少しでも向上させるために、平成19年3月～5月までの3カ月間、毎週木曜日に総合サービスセンターの窓口を午後7時まで延長した。来庁者総数148人、265件の実績が有り、前年試行時よりも増加している。
	指定管理者制度の導入	平成19年4月から、市民会館、公会堂、市民センターの3館は、施設の管理に民間の能力を活用し、住民サービスの向上を図るとともに管理経費の削減を図るため、指定管理者制度を導入した。指定管理者は、HPの立ち上げや会館だよりの発行などPRに努めるとともに自主事業にも積極的に取り組み、市民に喜ばれている。
	町会活動支援員について	市内町会の役員の高齢化やなり手不足などの課題解決に向けて、市職員の町会への積極的な支援のため、町会と市とのパイプ役を担う「町会活動支援員制度」を平成19年10月にスタート。153町会中47町会に管理職を配置。
福祉部	休日保育事業の実施	就労形態の多様化等により、日曜日・祝日に児童の保育を必要とする認可保育所利用者のニーズに応えるため、平成19年8月から中央保育所で休日保育事業を行った。「小樽市次世代育成支援行動計画」の前記計画に盛り込まれていたものである。
	第4回全国視覚障害者卓球小樽大会	平成19年9月16日～17日、全国視覚障害者卓球小樽大会が小樽市総合体育館において行われた。選手、役員120名、ボランティア100名が参加。
環境部	「ポイ捨て防止！街をきれいにし隊」	公共の場所での歩きたばこの自粛やごみのポイ捨て防止の意識啓発等の活動を行うため、平成18年6月に結成した市民ボランティア「ポイ捨て防止！街をきれいにし隊」の環境美化活動の2年目の事業。4月から10月までの7カ月間、月1回、各種団体や小学校、事業者のほか新たに高等学校さらには北海道後志支庁と連携・協働し、街頭啓発や清掃活動を実施した。延べ参加者数1034名(H18年度625名)  4月から10月まで7カ月間、毎月1回活動予定。新たに海岸清掃などを予定。(小樽水族館開館50周年記念事業と連携した活動および「潮まつり(花火大会)」後の早朝清掃

は19年中、 は20年以降の内容です。

部	項目	概要
環境部	北しりべし広域クリーンセンターの供用開始	ごみの共同広域処理を目指し、6市町村(小樽市、積丹町、古平町、仁木町、余市町および赤井川村)で組織された北しりべし廃棄物処理広域連合において、平成16年度から建設していた焼却施設およびリサイクルプラザが、平成19年4月から「北しりべし広域クリーンセンター」としてオープンし稼働している。(総事業費 74億7千万円)また、同センターでは施設見学を随時受け付けており、オープンから134団体、約2500人の小中学生、町内会、老人クラブその他各種団体の見学者が訪れている。
建設部	<p>オタモイ住宅2号棟完成</p> <p>市営住宅指定管理者制度の導入</p> <p>市営住宅テレホンサービスの試行</p> <p>小樽公園の一部開園</p> <p>小樽駅前第3ビル周辺地区第一種市街地再開発事業</p>	<p>「小樽市公共賃貸住宅ストック総合活用計画」に基づく現地建替団地として、8月に完成し9月から入居が開始されました。中層耐火構造5階建て50戸、段差解消や緊急ブザー等高齢者や身体障害者の生活に配慮している。(1号棟55戸は平成17年8月に完成)</p> <p>平成19年4月から市営住宅(44住宅)の管理に指定管理者制度を導入。入居希望者や入居者の各種相談・問い合わせ窓口が、年末年始を除く土・日・祝日も開設され、開設時間も午後7時まで延長されるなど、市民サービスの向上が図られている。修繕相談では、建築士を配置するなど迅速に対応できる体制が整っている。</p> <p>平成19年10月から市営住宅の募集予定住宅のテレホンサービス(31-1140)を活用した情報提供(試行)を24時間対応で開始した。</p> <p>昭和45年に開園し市民に親しまれていた小樽公園「こどもの国」が平成17年秋に閉園しましたが、平成19年から「小樽公園再整備事業」の一環として遊具施設などの整備を進め、10月に「冒険」をテーマとした大型組み合わせ遊具2基や迷路が完成し新たな公園の一部として開園しました。</p> <p>平成19年2月に「小樽駅前第3ビル周辺地区市街地再開発組合」が設立され、3月に北海道知事から権利変換計画が認可されました。これを受け、6月末に第3ビルと周辺建物の解体工事が行われました。12月5日には地鎮祭が行われ、その後、新築工事に着手しています。</p> <p>この市街地再開発事業では、商業・住宅・ホテルなどの複合ビルが建設されることとなり、商業店舗は、地下1階と地上1階、住宅部分は、地下1階、地上17階建てで、住宅戸数は117戸、ホテル棟は、地下1階、地上10階建てで、客室数は234室で計画されています。商業施設が21年3月に、マンション・ホテルについては、21年5月に完成予定です。</p> <p>この施設については、小樽駅前の顔となるよう大きな期待を寄せるとともに、中心市街地の人口減少対策や雇用の確保、地域活性化に大きく寄与する事業であると考えています。</p>

は19年中、 は20年以降の内容です。

部	項目	概要
建設部	中心市街地活性化基本計画	平成18年に中心市街地活性化法が改正されたことに伴い、中心市街地の活性化に向け、新たな「中心市街地活性化基本計画」を策定することとした。市街地の整備改善、街なか居住の推進、商業の活性化を柱とした新基本計画を策定するが、平成11年に策定した「街なか活性化計画」が掲げた目標のうち、定住人口の回復や交流人口の増大など実現できなかった反省を踏まえ、新たな中心市街地の活性化の方針や目標、さらには目標達成状況を的確に把握できるように、定量的指標に基づく数値目標を設定する。策定にあたっては、小樽商工会議所と小樽駅前ビル(株)が設立した「小樽市中心市街地活性化協議会」において協議、意見をいただき、今年の早い時期に国の認定を受け、重点的な支援を受けたいと考えている。
港湾部	小樽港将来ビジョン  クルーズ客船	<p>学識経験者、経済界、港湾関係者、市民団体など21名からなる「小樽港将来ビジョン懇談会」を設立するほか市民意見なども募集し、小樽港の今後の振興策や港湾行政の新たな指針となる「小樽港将来ビジョン」について検討してきたが、平成19年11月に最終とりまとめを終えた。ビジョンでは、「物流の活性化」「まちづくりとの連携」「石狩湾新港との連携」という三つの基本目標を柱として、施策の体系をまとめるとともに港湾空間のゾーニングを示したものとなっており、現在策定中の小樽市の新たな総合計画にも反映させていきたい。</p> <p>「にっぽん丸」が小樽港を起点港として道内を周遊する「飛んでクルーズ・北海道」が好評であり、今年さらには1航海を増便し4航海の運航が予定されている。また、今年「飛鳥」「にっぽん丸」「ぱしふいっくびいなす」「ふじ丸」の国内クルーズ客船の4隻すべての入港が予定されている。クルーズ客船の入港を歓迎する体制づくりとして「客船歓迎市民クラブ」を組織し、クルーズ客船入出港時の出迎え・見送りなどを市民をあげて行う体制を整え、クルーズ客船歓迎の気運を高めていきたい。</p>
教育部	市立学校の規模・配置の検討について  高島小学校温水プールリニューアルオープン  総合博物館オープン  長橋小学校における千年の森の植樹会	<p>平成19年5月に「小樽市立学校の規模・配置の在り方検討委員会」から「市立小・中学校における学校規模および学校配置の在り方について」中間報告が出され、市民からの意見を求めるなどを行い、10月に教育長へ最終答申された。</p> <p>「小樽市立学校の規模・配置の在り方検討委員会」から「市立小・中学校における学校規模および学校配置の在り方について」の最終答申を踏まえて、教育委員会では、学校の適正配置に関する基本計画案を作成する。</p> <p>市営プールの代替施設として、高島小学校温水プールが平成19年7月にリニューアルオープンされた。</p> <p>博物館機能と科学館機能を統合した総合博物館が、平成19年7月にオープンした。また、10月には「青少年のための科学の祭典」北海道大会が開催された。</p> <p>平成19年8月26日に長橋小学校において、環境保全および環境教育を目的として、児童・父母・地域住民ほか「北海道千年の森プロジェクト」関係者による1200本の苗木の植樹が行われた。</p>

は19年中、 は20年以降の内容です。

部	項目	概要
教 育 部	スクールバスの運行およびバス通学助成の拡大	桃内地区から忍路中央小学校に通学する児童のためスクールバスを運行してきたが、10月より長橋小学校・銭函小学校の遠距離通学児童を対象とし、スクールバスの運行を開始した。スクールバスの運行拡大に伴いバス通学助成についても対象者に通年全額助成を行うこととした。(小学生2km以上、中学生3km以上)
	小樽市文化芸術振興基本計画の策定	平成18年に制定された「小樽市文化芸術振興条例」に基づき、豊かな郷土文化を礎にした、文化の香り高い街小樽を創造することを基本的な目標として、文化芸術活動の推進を図るため、「小樽市文化芸術振興基本計画」を今年4月からの10年計画を策定する。
	中村善策特別展	中村善策ホールの開設20周年を記念して、美術館で特別展を平成20年5月に開催予定。
	榎本武揚特別展	榎本武揚の没後100年を記念して、「榎本武揚と歴史小説」特別展を文学館で平成20年6月に開催予定。
消 防 本 部	広報用自動車の寄贈	平成19年10月に小樽危険物安全協会50周年、小樽市防火協会35周年合同記念事業として、広報用自動車の寄贈があった。この広報用自動車は火災予防広報や予防査察、連絡用のほか、火災・災害発生時に必要な人員輸送や機材搬送を担うことにしている。
	住宅用火災警報器の設置促進活動の実施	住宅用火災警報器の設置促進に向け、市内6地域を住宅防火モデル地区に選定し、市内全世帯の約1割に当たる約6500世帯を対象に、1月から防火訪問、チラシ配布、4月からアンケート調査(毎年)を行い、設置期限の平成23年6月まで住宅用火災警報器の普及状況を調査するとともに警報器の設置促進に努めたい。また、この調査結果により市内の住宅用火災警報器の設置状況を推測し、一層の防火安全対策を進めていきたい。
	おたる救急ステーション事業	AED(自動体外式除細動器)を設置し、かつ、応急手当のできる従業員等が勤務している事業所等を「おたる救急ステーション」と位置付け、ステッカーなども張り、応急手当を提供できる場所として市民や観光客にも分かるようにし、救命効果の向上を図るものです。
	救急普及啓発広報車の導入	平成19年12月26日に(財)救急振興財団と(財)日本宝くじ協会から「救急普及啓発広報車」の寄贈を受けました。この広報車は、放送設備、照明設備、発電設備などを完備し、車両をステージとして使用できる北海道に1台しかないものです。応急手当の普及啓発活動を効果的に行うことが期待でき、道央地域全体の普及にも役立つため、各消防本部への貸し出しも考えている。
災害対応特殊化学消防ポンプ自動車の導入	危険物施設等における火災に迅速・的確に対応するため、災害対応特殊消防ポンプ自動車を導入した。危険物施設火災は、ひとたび発生すると消火が困難なものであるため、この消防車の導入により、化学消火薬剤を使用した消火活動がより一層迅速、的確に図られる。	

は19年中、 は20年以降の内容です。

部	項目	概要
消防本部	新型防火衣(ISO規格)の導入	昭和62年から使用しているアルミックス製防火衣を新型防火衣へ変更した。この防火衣はISO規格を基準として製作され、ケブラー繊維を使用したアルミ蒸着式で、上着とズボン(上下セパレート式)から構成され、従来型と比べ遮熱性、防護性、快適性等すべてにおいて優れている。このため、隊員の安全性の向上はもとより、災害現場での活動がより一層迅速、的確に図られる。
	携帯電話・IP電話からの119通報に関わる位置情報通知システム	消防庁の通知システムモデル事業として、平成19年4月から運用を開始した「位置情報通知システム」である。携帯電話による通報者の発信位置が特定されることから、観光客など場所がわからないときでも通報場所の確実な把握や特定が可能となる。IP電話による通報であっても住居が早期に特定できるようになったことから、迅速な出動指令が可能となった。